

“Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第11巻 第3号 (No.34)

発行日 平成29年3月1日

ポジティブに地道に子どもたちへの支援を

目次:

ポジティブに地道に 子どもたちへの支援を	1
療育プログラムのような	2 3
コラム：語用論との出会い	4
教育センターからのご案内	4

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

今年度も残りわずかととなり、子どもたちと保護者の方々の会話が、4月当初より格段に広がっていることが、廊下から聞こえてくるそれぞれの親子の会話から感じています。また、保護者の方々から「わかりやすくできる問題を取り入れて達成感を持てるように取り組んでいただけたことで、どんどん考える力、伝える力がついてきました。」「1年前の今頃は幼稚園の進級も危ぶまれていて、親として子どもに何をしてあげたらよいのか悩んでいました。子どもができることが増え、それが自信になり、目まぐるしい成長を遂げたわが子をほめてあげたい。」などの感想も寄せられています。子どもたちと保護者の方々とセンターとの連携がうまくかみ合い、良い循環ができていて、一年という期間でもこんなにも子どもたちが成長するのだと、改めて感じる事ができ、嬉しく思っています。

しかし、社会においては、7月に起きた津久井やまゆり園の元職員が「障害者はいなくなればいい」という信じられない理由で入居者を刃物で殺傷した事件のニュースを聞き、あまりのショックに言葉もありませんでした。このような悲惨な事件や事故、障害者施設が近隣に来ることに反対するなどのニュースに触れるたびに、障害者への差別や無理解を実感し、意識の障壁の高さに哀しみやむなしさ、さらには怒りさえも感じています。

日本は、国連の障害者権利条約を批准

するために、障害者基本法の改正、障害者差別解消法などの法律が施行されました。その中に「不当な差別的取り扱いの禁止」や「合理的配慮の不提供は差別」ということがしっかり明記されましたが、人としての権利が前提として守られてこそその合理的配慮や意思決定支援だと思えます。

人は誰もが年を重ね、何らかの障害を抱えて生を全うしていくはずで、その自覚なしに自分と違うことで排除したり、差別したりすることや存在を否定することは許されません。障害に対する偏見や差別、憐れみなどの心の障壁の解消が先決だと思います。「地域に生きて、人と人がお互いに支え合う、共に生きる社会」の実現のために、めげることなくポジティブに地道に、保護者の方々と協力して、広く世間に理解者を増やしていけるような教育を実践していくことが、今の私たちにできる最善の解決策ではないかと改めて考えさせられました。

少し暗い話題となってしまいましたが、教育センターの所員は常に前向きに、子どもたちを支援の中心において日々の教育に邁進してきました。これからも、保護者の方々と共に汗をかき、子どもたちの成長と一緒に喜び合える存在であり続けたいと思っています。

来年度も引き続き、連携を密にし、協力して子どもたちの支援をしていきたいと思えます。

入学式





療育プログラムのようす 【各教室・言語・ラーニングプログラムの様子】

言語プログラム 「か行」

などの特定の音の発音練習として、サイコロを使いゲームとして課題に取り組みます。サイコロの目には作るのが苦手な音と得意な音が書いてあります。振った順に文字を発音します。子どもにサイコロを立てて振らせると、発音することだけに集中することなく、苦手な音が言えることが増えてきました。さあ、次はどんな文字が出てくるのかな。ワクワクしている、子どもの顔が輝いて見えます。(服部)



あ・か・あを5回繰り返そう

幼児絵画造形教室

今年度もクレヨン、絵の具、糊、はさみなどを使って作品作りを楽しみました。紙粘土はみんなの好きな活動のひとつです。カラフルな色のお弁当、真っ白な雪だるま、そして今回は写真立てに挑戦。指先を使って細かな模様を貼り付けたり、ビーズを飾ったりと思いに作品作りを楽しみました。(本田)



見て、見て、できたよ！

体育教室

今年のインラインスケートは、勢いよく滑走ができるようになった子どもも、ウォーミングアップとして足をVの字にして歩くVウォークに例年より多くの時間を費やしています。ただ歩くだけでなく両手を膝に置き、重心を下げることを重点として取り組んでいます。この練習をすることで、滑走時だけでなく、ブレーキをかける時にも安定感が増すようで、早くも子どもたちの滑走の様子に変化が見られています。(鈴木)



基本は大事！

SST教室

小5・6年は、好きなことや学校での出来事など、自由なテーマで友だちと会話をする時間を毎回設けています。また、『会話のタネづくり』として、会話のきっかけになる質問をみんなで考えました。「好きな食べ物は何？」「日曜日どこに出かけた？」など、これまで友だちとしてきた会話の内容を思い出しながら、会話のタネを作ることができました。(大澤)



「会話のタネ」を使って会話

ダンス教室

2月に開催したミニ発表会は、応援に来られた皆さんと一緒に、いつも授業で行っているヨガ体操で体をほぐすことから始まりました。そして、会場の雰囲気と身体が温まったところで、数ヶ月間練習に励んできた「しあわせのうた」を披露しました。皆、緊張しつつも心を込めて笑顔で踊ることができました。この達成感を自信にかえてどんどんステップアップして行って欲しいと思います。沢山のご声援ありがとうございました。(新堂)



みんなの気持ちがひとつになって

ラーニングプログラム

担当者1名に対して子どもたち2名(もしくは1名)での個別学習です。学習進度に合わせた学習を1時間行っています。教科書の学習だけでなく、お金や時計など生活の中で必要な知識を身につける内容にも力を入れています。幼児から高校生までが対象のプログラムですので、年齢によっては体を動かす時間を取り入れ集中力が持続できるような工夫をしています。(藤本)



本物のお金を使って

幼児体育教室

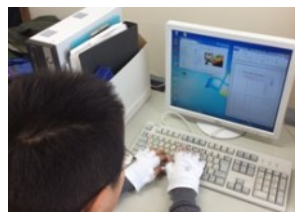
1月から続けているボルダリングでは、手と足をバランスよく動かし移動することが上手になりました。できることがわかるにつれて自信がつき、だんだん「ドキドキ」から「わくわく」に気持ちが変わっているようです。恐竜・カエル・くじら・ぶたなど、いろいろなホールドをめざして、身体を動かしていく時の表情にも余裕がみられるようになりました。(久留)



恐竜のホールドをめざして

コンピュータ教室

文書作成ソフトのWordを使用して、一年間頑張ったことや好きなものについての新聞作成を行っています。見出しや本文の文字の色や大きさを調整したり、図形ツールやインターネットで検索した画像を挿入したりして、工夫を凝らしながら製作に励んでいます。これまで学んできたことを活かして、一年間の総仕上げとしていきたいと思っています。(吉田)



新聞作成



【スクールプログラムの様子】

幼児 音楽の時間では、楽器に触れたり、声を合わせて歌ったり、手遊びをしたり、それを友だちの前で披露したり、色々な方法で「音を楽しんで」います。楽器は鈴、タンブリン、カスタネットなど、音の出し方を知るところから、曲に合わせてのリズム打ちまで、各学年で取り組みを続けてきました。みんなとても上手になって、自信がつき、さらに「楽しく」なりました！（臼井）



リズムに合わせて

1年生 国語の学習でカテゴリ分けの学習をしています。「りんご・ばなな・ももは何のなかまででしょうか。」等の問いに子どもたちは張り切って手を挙げて答えていました。また、乗り物・鳥・やさい・ぶんぼうぐ・などのいろいろな種類のカードを複数枚子どもたちは手に取り黒板にカテゴリごとに貼る活動にも取り組みました。友だちと協力しながら楽しそうにしている様子に成長を感じました。（宮下）



もの なまえ

2年生 算数では、「大きい数」の学習をしています。位ごとに絵を数え、最後に総数を答える練習を繰り返し行っています。空位のある問題に苦戦している子もいますが、位取り表を手がかりにしながら視覚的にイメージできるよう指導しています。学年が上がるにつれ、扱う数の桁数もどんどん多くなっていくので定着できるようにこれからも頑張っていきます。（宮川）



位ごとに数えよう

3年生 図工の時間に『粘土』を行っています。真冬の粘土は冷たくてなかなか形が変わりませんが、机に叩きつける、押しつぶす、指でつまむ、雑巾のように絞るなどの活動を繰り返し行っていくと次第に粘土が柔らかくなっていきます。指先や手のひら、腕、肩、全身を使って粘土をこねながら、季節のモチーフとして鬼の顔や雪だるまの作品を作りました。（諸橋）



あと少しで雪だるまの完成



楽譜を見て独奏

4年生 小学校4年生までスクールプログラムの中で鍵盤ハーモニカを使った音楽活動を行っています。課題曲はなるべく黒鍵を使わない曲を選ぶことが多いのですが4年生は、曲によっては1, 2か所使うことがあります。1年生からの積み重ねがあり、友だちとテンポを合わせて演奏することができるようになった子どもたちが増えてきています。（藤本）



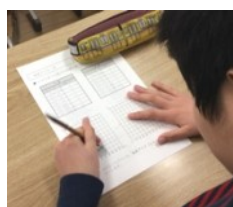
円グラフの読み方

5年生 算数では『割合とグラフ』の学習で、小数で示された割合を百分率に直したり、グラフをかいたりしました。グラフの学習では、項目と百分率が書かれた表を見ながら、その内容を円グラフや帯グラフで表したり、グラフから割合を読み取ったりする方法を覚え、集中してプリント学習に取り組むことができました。また、定規を用いて慎重にグラフをかく作業を進めることもできました。（大澤）



一生懸命走っています

6年生 4時間半のスクールプログラムでは毎回のプログラムの最初に、屋外に出て朝のジョギングを行っています。朝の清々しい空気の中で、クラスの友だちと一緒にジョギングをすることで、「今日も一日頑張るぞ！」と心と体にスイッチが入ります。体が震えてしまうほど寒い朝が続いていますが、早く体を温めようと、子どもたちはいつにも増して一生懸命走っています。（吉田）



表からグラフ作成

中学生 数学では資料の活用について学習しています。資料を度数分布表にまとめ、そこから柱状グラフを作成します。例えば、30人分の「ソフトボール投げの記録」を0m以上5m未満、5m以上10m未満・・・と、範囲ごとに抽出して度数分布表を作り、その表をもとにグラフを作成します。作業量の多い学習でしたが、生徒たちは皆集中して取り組み、グラフを作ることができました。（吉田）



コラム 自閉症の研究から (1)

語用論との出会い

1990年代、ロンドン大学の大学院生として勉強をしていたとき、「語用論」という言語学の新しい分野の研究に出会いました。私たちが言葉を使ってコミュニケーションをする際に、言葉になっていない部分がどのように伝わるのかを研究する学問が語用論です。「行間を読む」とか「言葉の裏を読む」などと呼ばれているプロセスを、科学的に説明しようとする学問分野と言ってもよいでしょう。

日常会話では、たとえば「この間のアレ、どうだった?」「あー、アレ、ちょうどピッタリだったわ」のように、第三者から見ると何の話をしているのかさっぱりわからないという情報交換がなされていることが少なからずあります。この例では、会話の中では「アレ」という言葉が何を指しているのかがわかること、

「ちょうどピッタリ」はどのようにピッタリだったのが理解できることが鍵となります。会話の参加者にとっては、たとえば「アレ」はお下がりの子供のジャケットで、それをもたらした子どもにピッタリサイズがあった、ということがわかればコミュニケーションは成立です。

私と自閉スペクトラム症とのそもそもの出会いも、語用論つながりでした。私が大学院生だったとき、今では世界的な自閉スペクトラム症の研究者であるフランチェスカ・ハッペさんもロンドン大学の大学院生でした。彼女は自閉スペクトラム症児にとって、皮肉を理解することが困難であることや、発音は同じで意味が違う単語(同音異義語)の理解が苦手であることなどを調べていました。彼女は、語用論の視点から本格的に自閉スペクトラム症児

松井 智子(東京学芸大学教授)

の研究を行った最初の研究者だと思えます。

その後20年以上がたち、今では自閉スペクトラム症と「社会的・語用論的コミュニケーション障害」の関連がより広く知られるようになりました。高い言語力を持つにも関わらず、会話の理解に必要な文脈をうまく使うことができず、コミュニケーションに困難を抱える自閉スペクトラム症の方は少なくありません。語用論の研究は、このような障害の要因解明や支援方略の評価にも貢献できると考えられています。そしてそのような貢献をすることこそ、武蔵野東学園のご協力のもと、現在我々が進めている研究のゴールでもあります。



このコラムは4回シリーズでお届けします。

ICF自閉症コアセット決議会議への参加

副所長 高松明広

昨年9月にスウェーデンのカロリンスカ研究所で開かれた「ICF自閉症コアセット決議会議」に参加してきました。

この会議には、イギリス、スウェーデン、インド、南アフリカ、アメリカ、日本など、WHOの加盟国から自閉症関連の専門家(精神科医、大学教授、言語聴覚士、教育者等)20名が招聘されました。日本からは武蔵野東学園が唯一の参加となりました。

このICFは「～に障害があるから～をすることが困難」ではなく「合理的配慮を施すことで～することが可能になる」といった個のできることを主体に考える点に特徴があり、今回の会議では、その概念にそった評価項目を選定するお手伝いをさせていただきました。微力ながら、自閉症の方々の社会参加に際するサービスの向上の一端を担える機会をいただけたことは嬉しいことでした。



各国の代表と(右前が高松)

学校法人 武蔵野東学園
武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください



セミナーのご案内

平成29年度のセミナーの日程が決まりましたので、ご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせいたします。4月上旬より募集を始めますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

- ①平成29年 5月25日(木) 10時～12時
- ②平成29年11月 7日(火) 10時～12時
- ③平成30年 3月 2日(金) 10時～12時